

目次

序 『古今童謡』に寄せて……………真鍋 昌弘 1

世界最古の伝承童謡集の写本刊行を祝す……………鵜野 祐介 3

はじめに……………9

『古今童謡』本文と解説……………尾原 昭夫 17

一 橋の下の菖蒲は……………(鬼きめ唄)……………18

二 おじゃれ子どもたち……………(子守唄)……………21

三 天が紅……………(自然の唄・夕焼け)……………23

四 次郎よ太郎よ……………(子守唄)……………24

五 鷺にゃ尾がない……………(動物の唄・鷺)……………27

六 からすからす……………(動物の唄・鳥)……………28

七 後のからす……………(動物の唄・鳥)……………29

八 棹になれ……………(動物の唄・雁)……………30

九 鳶ままいろ……………(動物の唄・鳶)……………31

一〇 すわすわ……………(動物の唄・鳶)……………33

一一	お月さまなんぼ	(自然の唄・月子守唄)	33
一二	向うの山に	(子守唄)	35
一三	雪やこんこ	(自然の唄・雪)	38
一四	猪のしし鹿のしし	(雪遊び唄)	40
一五	大山やまの	(雪遊び唄)	41
一六	地頭殿鼻の先	(いたずら遊び唄)	42
一七	座頭の坊のしりに	(悪口唄)	43
一八	あの子はどこの子	(悪口唄)	44
一九	あいつが面に	(悪口唄)	45
二〇	歯抜けばば助	(悪口唄)	45
二一	おふり様の	(悪口唄)	46
二二	鍛冶屋の職は	(悪口唄)	46
二三	烏のまねを	(まじない唄)	47
二四	縁の下のごもく	(からかい唄)	48
二五	今日はなんの日	(裾まくり遊び唄)	48
二六	加賀の鏡屋の	(言葉遊び唄)	51
二七	起き起き小石	(石起こし遊び唄)	52
二八	でんでんでのむし	(動物の唄・蝸牛)	53
二九	鳴れ鳴れ権太郎	(植物の唄・麦笛)	54

三〇	芋虫かわらけ	(動物の唄・芋虫)	56
三一	ありの道はどう行く	(動物の唄・蟻)	58
三二	こっちの手は金に	(まじない唄)	59
三三	どっちの髪も	(まじない唄)	60
三四	爺が髭は	(植物の唄・草)	61
三五	地頭どの米つき	(動物の唄・蚊)	62
三六	ころころ馬の子	(動物の唄・馬)	63
三七	いれいれごんば	(くぐり遊び唄)	65
三八	扇たたんで	(まわり遊び唄)	67
三九	中の中の小仏	(人当て遊び唄)	69
四〇	親はとるとも	(子取り遊び唄)	72
四一	鬼々事	(鬼遊び唄)	75
四二	狼事	(鬼遊び唄)	79
四三	草履かくし	(草履かくし唄)	80
四四	かくれ子	(かくれ遊び唄)	84
四五	いちくたちく	(指遊び唄)	85
四六	ぐいにすいに	(鬼遊び唄)	87
四七	大やぶ小やぶ	(顔遊び唄)	88
四八	雀の酒盛り	(手遊び唄)	90

四九 地頭殿手車

(手車遊び唄)

五〇 かあごかあご

(かご遊び唄)

鳥取藩士野間義学とその時代

大嶋 陽一

江戸時代のわらべ唄を考える―野間義学の収録歌を参考に―

酒井 董美

あとがき

参考・楽譜